

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷三十二第

行發日一月九年五十正大

論叢

消費税に於ける砂糖税の地位教授 法學博士 神戸 正雄

徳川幕府の財政について教授 經濟學博士 本庄榮治郎

酒税の轉嫁を論ず助教授 法學士 汐見 三郎

時論

英國炭坑國有問題教授 法學博士 河田 嗣郎

輸出信用保險制度創定の提案教授 經濟學博士 小島昌太郎

說苑

農奴解放後ける露西亞の土地問題經濟學士 吉川 秀造

雜錄

英吉利の商工立國政策助教授 經濟學士 八木芳之助

造船船工場に於ける公傷率彦根高等商業學校教授 經濟學士 岡崎 文規

獨逸の勞働者銀行助教授 經濟學士 楠見 一正

失業と物價の變動經濟學士 菊田 太郎

法令

林業共同施設獎勵規則・自作農創設維持補助規則・乳肉卵共同處理獎勵規則

雜 錄

英吉利の商工立國政策

八木芳之助

Warren S. Thompson は「亞米利加人の見たる英吉利の人口問題」(Britain's population problem as seen by an American) と題する論文を The Economic Journal, June, 1926. に寄せ、英吉利の商工立國政策の行詰れるを指摘して英吉利現在の人口を維持するには農業を復興するの必要あるを力説してゐる。余は本論文を以て甚だ興味あるものと信ずるが故に、「英吉利の商工立國政策」の題の下に、其の梗概を左に紹介することとする。

一 緒 言

英吉利の現在の經濟的不況に關しては、大體左の三様の説明が下されてゐる。即ち(一)英吉利の勞働は能率低く、屢々怠業を惹起するが故に、勞働が一層能率高く、且つ一層眞面目に仕事に従事する他の諸國と競争するも勝算を有せずとするもの、(二)現今の不況は經濟循環の

一現象に過ぎず、從て毫も特殊の意義を附すべきものでないとするもの、(三)英吉利は人口過剰であるから、大戰以來の新狀態を根本的に革新するにあらざれば、好況を期待し得ずとするもの等である。

此等の説明中(一)及び(二)は多少の眞理を包含するも、人口學者にとりては第三の説明が最も研究に値してゐる。吾人にとりて現今の英吉利の經濟狀態が興味ある所以は、之に由て商工立國政策を採れる國家に於ける人口増殖過程の性質を明白ならしめ得るからである。此の過程を善く理解することは、二十世紀の商工業界に於て優越せる地位を獲得せんと願ふ北米合衆國及び其の他の諸國にとりて極めて有益である。蓋し此等の諸國が此の努力に成功する程度に應じて、英吉利と同様に、食糧及び諸原料は之を外國に依頼し、工業品の販賣は之を外國市場に求めざるを得ざるに至るからである。有らゆる成功は犠牲を拂つて獲得せらるゝものであつて、英吉利の如く世界商業に成功せんとするな

らば、之が努力及び到達に於て支拂はざるを得ざる犠牲を明瞭に意識して之を爲すべきである。英吉利の現在の經濟的不況を正當に判斷するに必要な事實を論議するに先ち、英吉利をして世界の工場たらしめたる諸條件を簡單に述ぶるであらう。

二 英吉利の工業的優越を有利ならしめたる諸條件

十九世紀の大半を通じて英吉利の工業、金融及び政治的優越を可能ならしめたる諸條件としては、久しき以前から確立されたる或種商工業

——殊に紡績業——の優越、動力——特に蒸氣力——に依て運轉さるゝ機械の發明及び採用、動力機械の使用を低安且つ容易ならしむる天然資源の存在、海運及び外國貿易の發展を容易ならしむる海軍及び船舶の所有、手近に存在する諸原料及び諸條件を利用する實際智識及び冒險的精神等を擧ぐべきである。英吉利の商工業の進歩は甚だ偉大にして持續的であり、諸國民に對する英吉利の政治的支配の擴張は、歐洲列國

によつて尙ほ急速に制壓さるゝ虞がなかつたから、成育するならば反對的影響を及ぼすべき敵對勢力に對しては、殆んど注意が拂はれなかつた。獨逸の商工業の發展に伴ふて、二十世紀の當初に、英吉利の經濟的水平線に最初の眞の暗雲が現はれた。之でさへも當然受くべき筈の注意を受けなかつた。蓋し商工業及び金融界に於て數代繼續せる成功は、英吉利の支配的地位をして潮汐と同様に自然的にして不可避的であり且つ將來長く確保さるべきものと信せしめられたのである。

此の種の心的傾向は多數の人々をして、英吉利の偉大なる繁榮と實力とは特殊事情に基くものであつて、其の若干のものは變化すべきものなる事を無視せしむるに至つた。英吉利の工業發達の初期に享受せる若干の利益が消滅するに伴ひ、夢想だにせなかつた競争に遭遇せざるを得なかつた。大戰は此等の競争を烈しからしめ、英吉利の當初の若干利益を消滅に歸せしめた。其の結果英吉利は今や眞の競争に遭遇し、

複雑に組織されたる近代の商工國家は最初の眞の試練を受けざるを得ざるに至つた。外國貿易のために、主として商工業的に組織されたる英吉利が、戰後歐洲の經濟的支配者として殘存し、現在の經濟的組織を以て、從前と同様に其の人口を維持し得るか否かが問題である。此の問題に答ふるため英吉利の外國貿易を三つの見地から考察しやう。即ち(一)英吉利の植民地及び諸外國の國內工業の發達が英吉利の外國貿易に及ぼす影響、(二)外國競争が英吉利の輸出貿易に及ぼす影響、(三)英吉利の商品が新市場を開拓する可能性の三點である。

三 英吉利の植民地及び諸外國の國內工業の發達が英吉利の外國貿易に及ぼす影響

戰前英吉利は其の食糧品の四割、羊毛のより、大いなる割合、石炭の全部、鐵鑛の約四分の三を生産してゐた。英吉利國民の生活に必要な其他の多數の貨物に對しては、外國の資源に依頼してゐた。斯る立場にある國家は、諸外國に

於ける自國工業の發展に慎重なる考慮を拂はなければならぬ。外國貿易に斯く依頼する國家にとりては、市場を失ふことは重大事件である。

然るに大戰は從來外國品を購買せる多數の諸國をして自給を圖らしむるに至つた、而して一度工業が設立さるゝならば、之を根絶するは、外國の競争者にとりて極めて困難である。而して關稅障壁は殆んど打破し得ざるものとなるのである。英吉利の最善の顧客たる諸國に於ける工業發達に關する若干の事實は、世界の狀態が外國貿易に關して如何に變化しつゝあるかを示し、英吉利の現狀を明白ならしむるであらう。戰後に於ける各國の英吉利からの購買減少は、管に戰後の困亂又は經濟循環の暫時的現象を示すに留らず、世界の工業力の整備を示すものであつて、英吉利は此等の變化の道程に於て損害を被らざるを得ないのである。

濠洲に於ては農業以外の産業及び商業に従事する人口の割合は、急激に増加してゐる。一八九四年に於ける製造工業の従業者は約十三萬三

千人であつたが、一九二一年には約三十九萬五千人となり、約三倍に増加したるも、總人口は六二%増加せるに過ぎない。一九〇九—一三年と一九一九—二三年との期間を比較すれば、濠洲の英吉利本國からの輸入は、約三分の一(貨幣價値に變動なきものとして)減少し、此の期間に於ける世界各國からの輸入は、濠洲の人口が二二%増加せるに拘らず、毫も増加を示してゐない。濠洲の各職業の就業者の百分比をせば、自由職業八・七%、商業一五・三%、運輸業九・〇%、工業三一・二%、鑛業二・九%、農業二・八%、家庭使用人九・一%となつてゐる。濠洲が將來世界市場に於ける製造品の大なる購買者となることは多分なからう。今日濠洲は食糧及び原料を販賣し、製造品を購買する農業國と看做さるゝも、間もなく自給國となるであらう。と云ふのは近代工業の據基性原料を豊富に有するからである。

加奈陀も濠洲と同様に工業化し、英吉利の農業屬國たる性質を失ひつゝある。農村人口は一

八九一年には全人口の六八・二%であつたが、一九二一年には五〇・五%に減退した。工業従業者は一八九〇年には三六九、五九五人であつたが、一九二〇年には六八五、三四九人となり、八五・四%増加したることとなる。全人口は此の期間に八一・八%増加した。農業以外の諸産業の發達の結果として、農業従業者は一八九一年には全職業者の四五・八%であつたが、一九一年には三四・三%となつた。加奈陀に於ける都會化及び工業化の一般行程は、濠洲に於けるが如く急激ではないが、併し製造品に對して他國に依頼することは大いに減退してゐる。英吉利本國からの輸入は、一九〇九—一三年から一九一九—二三年に至る迄に三五・六%減少した。而して加奈陀の總輸入は、前十年間に於ける一二二%に比して三三%増加したるに過ぎない。其の人口は二二%増加した。英吉利の他の屬領が間もなく殆んど工業的自給状態となるを疑ふ餘地がないのである。

南阿も工業的自給の方向に迅速に進んでゐ

る。此の事は、各種の職業統計に就て見るに、濠洲及び加奈陀の如く明瞭ではない。蓋し茲に於ては、總ての不熟練労働は黑人に依て行はれ、比較し得べき材料は歐羅巴人にのみ適用され得るからである。一九二一年に於ける主要職業従業者の百分比は、農業三五、商業一九、工業一八・八、自由職業二・三、運輸業六・一である。南阿の工業生産統計によれば、一九一一年乃至二一年間に生産額（貨幣價値に變動なきものとして）は三倍に増加し、工業に於ける石炭消費の迅速なる増加、從て工場の馬力數の大いなる増加を示してゐる。南阿は國內消費に必要な貨物の大部分を製造するやうになりつゝある。一九〇九——一三年から一九一九——二三年に至る期間の輸入増加は、一・五%（貨幣價値に變動なきものとして）に過ぎざるに、南阿在住の歐人の數が一六%増加したる事實は、南阿の工業的自給の發展を示すものである。

印度の狀態は上述せる諸地方の如く明瞭ではない。最近印度に於ては農業従業者の數が増加

してゐるが、之は工業發展の直接結果であることは、一見矛盾の如くである。けれども工場生産方法の採用に依て失業することゝなつた、從來農業以外の諸産業に従事せる村落人口は、餓死するか又は農業に従事するの外選ぶべき途がない。だから印度の工業化の發展は、暫時農業者の數を増すであらう。印度の近代の諸工業が資本主義的に組織さるゝ事は、労働者の消費力を増大するに與つて無力であつて、且つ重大なる失業問題を惹起し、斯くて此等失業者の消費力を減少せしむるものである。更に斯る諸工業は多數の人々を農業に逐ひ込むことによつて、總人口の四分の三に達する農業人口の個々の消費力を減少するであらう。事實上農業従業者の割合が僅少に増加するに過ぎないとするならば、各個人としての印度人の生産力は大いに減退し、輸入は増加するよりも減少するであらう。輸入品を吸収する印度人の能力は甚だ僅少であつて——ケ年一人當り四弗以下である——此の僅少なる能力でさへも減少するには、農業資源に對す

る人口増加の些少の壓迫を要するに過ぎないであらう。印度人の一般状態から考ふれば、印度の最近の輸入減少は永久的のものにあらずとするも、近き將來に於て著しく増加せないのであらう。

支那に就ても上述せる工業化の過程は同様に當嵌まるのである。支那の工業發達に關する統計を缺くが爲めに、工場生産が如何に迅速に工業及び外國輸入に代りつゝあるかを示し得ない。併し支那年鑑に記載されたる諸工場を詳細に調査する時は、支那に於ける諸工場は、機械生産物を吸収する人民の能力と同様に急激に増加しつゝあるも、外國貿易の數字は全體として毫も迅速なる増加を示し居らずとの印象を與ふるであらう。

英吉利の他の大いなる取引國が、工業品の自給に向ひつゝあるは周知の事實である。北米、合衆國及び日本は、大戰中に甚だ迅速なる工業的進歩を遂げ、現今兩國の英吉利からの輸入は著しく(約四分の一)減少した。大戰が獨逸の外國

貿易に如何なる永久的影響を及ぼしたるかを正當に斷言するは、早計に失するも、右の兩國と同様であらう。少なくとも獨逸は今後十年又は二十年間は、戰前の如く英吉利の善い取引先とはならないであらう。と云ふのは獨逸の需要は英吉利のそれと同一方向に向ふのであつて、原料及び食糧を供給する諸國と取引するを有利とするからである。

南米に對する將來の外國貿易の發展は、上述せる諸國に對するよりも、明らかに好都合である。南米は低廉なる燃料を缺くが爲めに、工業的發展の徵候は未だ殆ど之を示してゐない。併し疑もなく將來に於ては大量の水力電氣が利用さるゝも、之が發展には數十年を要するであらう。從て其の間、國內工業品が外國輸入品を抑壓することは些少たるであらう。

露西亞の真相を知るは不可能なるを以て、近き將來に於ける世界貿易への參加に就て、正確に判斷し得ない。併し恐らく露西亞は、工業組織の發達を自體を目的とせず、寧ろ農業の從

屬物として、之が發達を徐々に圖るであらう。

此等の工業が發達する迄、多數の貨物が輸入され、殊に農業を近代化するため、農業機械が輸入さるゝであらう。此の貿易の利得は、恐らく主として獨逸に歸するであらう。若し北米合衆國が露西亞と友情關係を確立するならば、第二に北米に歸するであらう。最近に於ける英吉利から露西亞への輸出は、戦前の三分の一（貨幣價值に變動なきものとして）以下に減退してゐる。此の輸出は近き將來に於て稍増加するも、從來の英吉利及び佛蘭西からの奢侈品の輸出は、今後全く市場を見出さないのであらう。併し機械を輸出することは、黄金の卵を生む鷄鳥を殺すものであつて、露西亞の比較的著しい機械の輸入は、自給状態が迅速に近づきつゝある事を示すものである。露西亞が工業品の大市場となりつゝあるか否かは疑問であるが、英吉利が此の貿易（主として機械からなる）に於て大いなる利得を得るか否かは更に疑問である。

四 英吉利と世界貿易に對する外國競争

上述せる如く英吉利は一九〇〇年以前に於ては、世界市場に優越してゐた。併し其の頃から獨逸の競争が烈しくなり、英吉利商人は獨逸商人に反感を懷くに至つた。獨逸の工業は最近の發達にかゝり、從て因襲の不利を破ることなく、其の商人は自己の商品を世界に紹介するに進取的であつて、從來の英吉利商工業家の舊式な呑氣な遣方が最早や無力となれるを示してゐる。殊に南阿に於ける獨逸の發展は急速であつて、一九〇〇年以來相對的に英吉利を凌駕してゐる。大戰は一時獨逸を競争外に驅逐せるも、同時に英吉利は最善の取引先を失ふた。英吉利から獨逸への輸出は、一九一九——二三年には一九〇九——一三年の四分の一にも達せない有様である。

同時に日本及び北米合衆國は、世界貿易の恐るべき競争者となつた。兩國は戦時價格の影響を受けて、工業能力を自給以上に發展せしめ、必然的に外國市場を求むるに至つた。合衆國の輸出は一九〇九——一三年から一九一九——二

三年迄に四五%増加し、日本は九〇%増加した。而して英吉利の輸出は此の期間に一二%減少してゐる(貨幣價值に變動なきものとして)。東洋方面に於ては、日本は英吉利の恐るべき競争國となり、殊に綿糸に就ては英吉利の印度貿易を凌駕し、英吉利と競争して支那に工場を設立するに一層敏活であつた。合衆國の外國貿易の増加は、日本のその如く、一地域に集中されてゐないが、其の最大の利得は東洋方面に於て示されてゐる。併し歐洲及び南阿に於ても大いなる發展が惹起された。

更に興味ある點は、英吉利の若干の自治植民地が其の製造工業品に對する市場を探求し、有利に生産し得る貨物を隣國に供給する其の能力が問題となりつゝあることである。工業自給状態から輸出者として世界商業に参加するは、ほんの一と足である。日本及び合衆國の發展はよく之を立證してゐる。此等の諸國に附加して、獨逸、濠洲及び加奈陀は、諸條件が今少しく好都合となるや否や、競争に参加せんと準備して

ゐる。獨逸は中部及び東部歐洲諸國との貿易に就て、過大の利得を占むるであらう。特殊商品の製造に關して、特殊利益を有するにあらざれば、此の方面に於て獨逸と競争するを得ないであらう。上述せる如く、露西亞は其の必要とする製造品に對して、外國資源に依頼する意志を毫も有せないのである。ポーランド、ツエツコ、スロヴァキア及び其他の中部歐洲の新興國に就ても同様である。

五 新市場開拓の可能性

從來大量の工業品を輸入せる諸國の國內工業の發達、合衆國、日本及び獨逸の競争力の増加更に其他の諸國の將來の競争の諸點から考ふれば、英吉利の外國貿易にとりては、新市場を開拓するといふ唯一の希望が残つてゐる。新市場の開拓と既に組織されたる市場の擴張とは之を嚴密に區別し得ないが、輸出國の工業的立場からすれば、後者がより望ましいのである。蓋しそは現存工業組織の擴張を意味するに過ぎないのであるが、前者は新貿易の特殊需要に應ずる

がために、工業組織を著しく變更するを要するからである。然るに既に述べたる所より考ふれば、舊市場の擴張は南米に於て、新市場の開發は阿弗利加、マレイ、東印度及び北部濠洲に於て望み得べきである。從て將來の貿易問題は、主として熱帶地方開拓の問題である。

白人が熱帶地方に居住して活動し得るや否やは、未解決の問題であるが、余は或る條件が充たさるゝならば、之を肯定せんとするものである。此等の諸條件の主たるものは、假令白人が禁酒者にならずとするも、少なくとも強烈なる酒類を節し、弱い酒類を適度に飲用すること、せねばならぬ。熱帶地方で強い酒を飲用することは、白人の健康を非常に害するのである。第二の條件は白人の家事經濟及び歐洲的生產經濟を改造することであり、第三の條件は熱帶の衛生及び醫藥に關する現在の智識を充分に利用し且つ之を迅速に普及することである。

歐羅巴人は斯る諸條件を充たし得ないのでは無いが、今尙ほ充分に斯る心的傾向を示してゐ

ない。クウィーンズランド(濠洲の一洲)の砂糖栽培地方に於ても、酒類の飲用は多量であつて其の家事經濟は全然歐洲式である。然るに歐羅巴人が熱帶生活に適應するがために、家計及び生產經濟を改造するに依て、工業品に對する欲望を大いに減じ、斯る商品の需要は豫想以上に減するであらう。歐羅巴人が熱帶生活に適應するによつて、其の生活方法が極めて簡易となり、歐洲の工業品に對する有效需要を、漏帶地方の同胞よりも、遙に低下せしむる所の生産減少(能率及び嗜好の減少に基いて)を惹起することは、余の確信である。從て白人が熱帶地方に迅速に移住するとするも、製造工業品に對する貿易を大いに發展せしめないであらう。

然らば固有の熱帶住民の間に新市場を開拓する可能性があるであらうか。幸にして實際の目的のために、此の問題を充分正確に回答するに足る多少の材料が存してゐる。ジャバは總ての熱帶の屬領中、最も善く統治されてゐるもの、一であるが、其の貿易よりして、歐洲の工業品

要之、英吉利の商工立國政策は、數十年以前の如く其の人口を維持するには最早や適せざるものである。英吉利は餘りに商工業に傾き、農業には全職業者の僅に九%が従事する迄に、後者は輕視されてゐる。英吉利が現在の人口を合理的なる生活規準の下に於て維持せんとするならば、農業の復活に努めなければならぬ。英吉利に倣ふて工業國とならんと願ふものは、瞬間の利得は努力するに値するか否かを反省するがよい。工業的發展によつて大いに利せんとする人々は、個人的利得と國家又は世界の福祉とを混同するものと謂ふべきである。